

5:38 『目には目を、歯には歯を』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
 5:39 しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。
 5:40 あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着も取らせなさい。
 5:41 あなたに一ミリオン行くように強いる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。
 5:42 求める者には与えなさい。借りようとする者に背を向けてはいけません。
 5:43 『あなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
 5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。
 5:45 天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。
 5:46 自分を愛してくれる人を愛したとしても、あなたがたに何の報いがあるのでしょうか。取税人でも同じことをしているではありませんか。
 5:47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたとしても、どれだけまさったことをしたことになるのでしょうか。異邦人でも同じことをしているではありませんか。
 5:48 ですから、あなたがたの天の父が完全であるように、完全でありなさい。

これはあくまでも実現不可能な理想であって、それに向けて努力していけば良いのだと言います。またある人は、どんなに高い基準でも神様の命令であるなら、絶対であって、それに反するなら本当のクリスチャンではないと言います。

そのどちらも極端であり、またこの世の論理に沿った考えであり、肉の力による発想であると言えるでしょう。ここにあるのは神の国の論理であり、聖霊の力による生き方です。

人は神様の十字架によって罪赦されて救われて天国の希望が与えられると、その感謝から神様に喜ばれたいという気持ちが湧いてきます。また神様の役に立ちたいと思うようになるものです。そこで神様に、どのように生きたら良いのですかと、聞きたくなります。そのような人々に語られたのがこの説教、すなわち山上の垂訓であると言えるでしょう。

このようなクリスチャンは、「左の頬も向けなさい」、「上着もやりなさい」、「敵を愛し」と言われると、やってみたいと思うものです。そして単なる理想であって、実行しなくても良いのだと軽く考えることはないでしょう。絶対の命令であるから、違反したら恐いことになるかと心配することもないでしょう。

私たちは、自分の心のうちに、このようなきよい思いがあって、主の心と近くありたいと願うものなのです。その思いを自分自身の内に発見しましょう。私たちの国籍は天にあるのですから、その天の価値観があることを発見しましょう。そして実際にやってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

